いわみざわ
IWAMIZAWA
発行所 陸上自衛隊 岩見沢駐屯地 O B 会
岩見沢市日の出台1-3
印刷所 北海道立福祉村 空知郡栗沢町最上350
☎ (0126) 45－2721

# PKO派遣隊員壮行会開催

三月六日、第二次カンボジア派遣施設大隊の要員として参加する、百十名の隊員と家族を激励する壮行会が駐屯地体育館で行われた。

この壮行会は、自衛隊協力会岩見沢隊区連合会（笠原喜平治会長）の主催で、空知支庁長、隊区内五カ市町村長はじめ来賓、派遣隊員の家族、留守を守る隊員ら約六百五十名が出席し、盛大に行われ派遣隊員を激励した。

この壮行会に臨んだ派遣隊員は第十二施設群九十六名と美唄駐屯地の一名、予備要員として十月以降同様の訓練・準備をしてきた十三名の百十名である。

壮行会では北部方面音楽隊の演奏するBGMにのせ、これまでの派遣準備や訓練の模様をスライドで紹介。

「ポギー大佐」のマーチにのってPKOカラーのベレー帽に迷彩服の隊員は、大きな拍手の中、堂々の入場をして壇上に整列。

主催者を代表して笠原会長が、「岩見沢駐屯地にとって新たな歴史の一ページ、地域住民としても誇りだ。隊員の皆さんは、六カ月間家族と離れ酷暑の地で崇高な任務につかれる。感謝をもって送りたい。どうか、十分体に気をつけて無事帰って来て下さい」と、あいさつ。

続いて、鈴木司令が「ここに精鋭百十名が勢ぞろいしました。慣れないクメール語や暑さに慣れる訓練等を実施して、ようやく半年、派遣の態勢がつつがなく終わりました。各人の右肩には日本の国益、左の肩には世界の平和がそれぞれ重くのっています。半年の後にはしっかりした成果をもたらしてくれると確信します」とあいさつし、要員に選ばれるために努力したり、結婚を繰り上げた隊員らのエピソード等をユーモアを交えながら、派遣隊員の任務を紹介した。

来賓を代表して能勢岩見沢市長が「皆様にとって大きな出来事と思います。地域住民は心から活躍を期待します」と、激励。

この後、隊員達は家族とともに祝宴の席につき、我が子を抱き上げる微笑ましい光景も見られた。

再び隊員が壇上に整列し、駐屯地の近くに住む近藤志づさんから手作りのシジミ貝のお守りと、募集相談員の柴田むつえさんからのお守り、そして各市町村代表の女性から隊員代表五名に花束が贈呈された。

派遣隊員、尾路二曹の長女真美香ちゃん、松田二曹の長男裕太君、山内一曹の次男亮君がそれぞれ「お父さんがいなくて寂しいけど、お母さん達の言うことを聞きます。早く帰ってカラオケに連れて行ってね」「病気などしない様に体に気をつけてお仕事頑張って下さい」「元気で帰ってね」と、かわいい声で激励を贈った。

これら数々の激励に対し、隊員を代表して第二中隊長の鈴木英明一尉が「カンボジア国民に接する事によって、平和の尊さ、戦争のむなしさ、また、道路・橋の補修を通じて人に尽くす喜びを感じ、そして、劣悪な環境で過ごす事によって日本の良さ、家族の愛情を再認識することでしょう。今回の派遣によって、ひと回り大きくなって帰ってきます」と、強い意思で臨む気持ちを語り大きな拍手が送られた。

最後に、岡田哲也隊友会支部長の音頭で万歳を三唱して壮行会を終えた。

## 第十二施設群長 一等陸佐 鈴木 通彦

雪が急に融け、あと旬日もすると皆さんがカンボジアの地に赴くことになります。

思い返せば昨年の秋にUNTACへの派遣準備に着手して以来、実に順調に準備を進める事が出来たなという気が致します。それは高い使命感をもった皆さんと残る全員のチームワークによるものであり岩見沢のもつ伝統によるものに違いないと自負しているのは、私だけではないでしょう。

今まさに皆さんのもつショベルによって、そしてドーザの排土板によって任務が始められようとしています。恐らく厳しい道程になるでしょう。

皆さんの右の肩には、日本の国益がそして左の肩には、世界の平和が重くのしかかり、背中に向けられる期待は山のように大きいものに違いありません。

しかし何ら心配する事はありません。既に皆さんは十分な訓練を積みました。Big Shelter Endeavor, Best Bridge 335, 麦区間RC・92そしてStep to Triumph どの部隊よりも内容のある訓練を積み重ねてきたのですから。また皆さんはどの部隊よりも明るい笑顔をもっています。更にどこにも負けない十分な支援態勢も整いました。

かの地に赴く人も残って支援をする人も心は一つです。どうか明るく楽しく精一杯力を奮って下さい。

やがて、孫別の演習場が青いこくわの実で一杯になる頃、皆さんが真っ黒に日焼けした逞しい顔で、そして平和と繁栄の有難さを知った満ち足りた顔で帰国された時に盛大に喜びを分かち合いたいと思います。

必ずや皆さんの努力はやがて大きく実り、造られた道路の上で、また架けられた橋の上で日本の子供とカンボジアの子供とが楽しく語り合う礎となるに違いありません。

そうです皆さんが千歳空港で乗る航空機のタラップは、凱旋の為の第一歩 Step to Triumphなのです。

いざ力強く大きな一歩を踏み出そう。

## 岩見沢商工会議所 会頭 勝井 祐輔

国際平和に積極的に貢献しようとする日本の新しい姿が見えてきました。

このたび、自衛隊岩見沢駐屯地から約百名の精鋭隊員が、PKO第二次派遣部隊としてカンボジアに派遣されることになりました。世界の平和と安定のために国連平和維持活動が果たす役割が、これからますます重要視されていくなかで、市民は派遣隊員の皆さんの現地でのご活躍を温かく見守っています。

今回派遣されるカンボジアは、住み慣れたわが国に比べて自然環境と気象条件が大きく異なり、厳しい生活に直面することもしばしばかと思います。着任後は現地の空気に早く馴れ、どうか健康には充分ご留意の上、任務遂行とご活躍を心から期待致します。

第一次派遣部隊と残留家族との連携は、必ずしも円滑に進んでいない状況が伝えられております。ご家族の皆様には大変ご心配の向きが想像されますが、どうか優しい思いやりと気遣いで、現地での諸活動と日常生活を見守って下さい。きっと、大きくなった父・夫を発見することと思います。

任務地での責務遂行、残留ご家族ともども誠にご苦労さまでございます。

# 隊友会岩見沢支部

『新年会』（四十二名参加）

平成五年一月三十日、岩見沢「つぼ八」で四十二名が参加して盛大に新年会を開催した。

冒頭に岡田支部長から挨拶があり、PKOについてふれ「今年は第十二施設群においては、PKO派遣の国際的・国内的にも重要な任務をもった任事があり、我々としてもいろいろな面で協力支援をしていかなければならないと思う。皆さんのご協力をお願いしたい」旨挨拶があった。

このあと懇親会に入り、新しく入ってきた人や一年に一回程度参加された人などで、珍しく顔を合わせた皆さんで話は尽きず、あっと言う間に時間が過ぎていた。

しかし、隊友会もときを重ねるごとに頭も白く、薄くなりつつあり、入院されている人の情報や、昨年の十一月の末に山形県に引っ越しされた煤賀さんが一月中旬に逝去されたことなど、それぞれ若かった時のことなどが思い出されるとともにご冥福をお祈りいたします。会員の皆さん、何卒健康に十分留意されてこのような集まりに一人でも多く元気な顔でお会いする日を期待しています。

長崎　記

# 隊友の集い盛大に終わる

平成五年二月二十一日午後から、岩見沢観光ホテルで「隊友のつどい」を開催し、三十三名が参加して盛大に行われた。

当日は、風邪などが流行していることから六名の方が欠席したので、例年より幾分少なめの参加者となった。このつどいは、半日をゆっくり楽しく過ごそうということであり、それぞれ入浴したり囲碁、将棋、マージャンなどで過ごした後十六時から懇親会に入った。

始めに岡田支部長から挨拶があり、支部連での支部長会議の結果報告があり、特に、PKO派遣に対する支部としての対応について、当支部としても会員の皆さんからの温かいご支援を切にお願いしたい。旨の挨拶があった。

また、浅沼事務局長から最近の報告事項等があったのち新入会員芳野栄氏の乾杯で懇親会の幕が下り、暫し歓談のなか、柿村氏の手品披露やクイズで頭の体操をしたり、カラオケでプロ？顔負けの喉を聞かすなど芸人ぞろいの懇親会で、あっという間に時間も過ぎ去っていった。

カラオケ自慢も次々と

乾杯の音頭をとる芳野氏

『随　想』

副支部長　安藤　冨夫
（岩見沢市議会議員）

第二次PKO派遣隊の一員として、岩見沢駐屯地からも派遣される事を聞いて、一瞬二十数年前札幌冬季オリンピックが決定された時、真駒内で勤務していた私達にも、支援命令が下るものと、期待に胸をときめかした事を思い出した。

当時、札幌雪まつりは、既に今日の様に大掛かりに行われており、国の内外を問わず注目を浴びており、また、部隊の支援も今日と優とも劣らない程で、口にこそ出さないが、我々自衛隊の支援無くしては成功は無いという自負心を持っていたが、自衛官や自衛隊に対して市民の目は、どちらかと言えば冷やかであったと思う（特に、若い女性には、制服、正帽のスタイルは奇異に映っていたようだ）。いきおい、制服、正帽が外出時に於ける、正規の服装で在るにもかかわらず、若い隊員の多くは、営門をくぐると直ぐに、近くの民家で営まれている貸しロッカーへ行き、私服に着替え外の空気を楽しんだ時代でもあった。

しかし、そんな時代ではあったが、オリンピック成功への願いから部隊支援に対する期待は、雪まつりの比ではなかったであろうし、また、大いに自衛隊を国民の身近なものとしてアピールできた出来事だったと思っている。

確かにこの度のカンボジア派遣は、オリンピックや雪まつり等とは比較にならない重大な任務であると理解しているが、残念に思うのは、今日国際貢献に対して、全ての国民が賛意を示し、この度のPKOカンボジア派遣については大多数の人達がその必要性を認めながら、自らそこへ参加するなどとは夢にも思ってはいない。誰かがボランティアを募って、または、政府機関の誰かが、現地に赴くであろう程度の感覚でしかない。

自衛隊に対しても、一部政党や、マスコミ知識人が、自衛隊イコール軍隊だから、憲法違反だ、停戦協定が守られていないから駐留だと、くちを揃えて唱える。

また、自治省も、地方自治体も危険だという理由で自治体職員の参加を止めてしまう。更には、多くの国民は私だって危険な所へ行きたくない。だから誰であっても行くことは良くないと思ってしまう。その結果、それならば誰が現地に行くのかという疑問に誰も答えず、またぞろ、物と金で済ませてしまうという安易な図式を作り上げる。その様なことは、すでに国際社会から大いに批判を受けている事を、知りつつ…。

どだい危険が無いと言ったら詭弁に成ろう予想のつかない危険が常に潜んでいるであろうし、何時どの様に状況が変わるかわからない。だからこそ、組織だったプロが行かなくては、活動が出来ないし、また、効果も上がらないと思いつつも、こんな国内事情では、命令には服従する立場にある自衛官といえども、何か割り切れない気持ちに成っているのでは…。

家族、身内の事を考える時、大いに迷い悩むのも当然だし、中には拒否する者も出るのでは、と思いもしたが、参加隊員全てが志願者で有ると聞いた時、胸の熱く成るのを禁じえなかった。

憲法論上の問題はどうあれ、現に現地に赴く自衛官一人ひとりに、なんら責任はない。

本来なら日本のために、我々の代わりに参加する一人ひとりに感謝の意を、表さねばならないのに…。

何故、国を挙げて、それが出来ないのか残念でならない。

確かに第二次大戦における軍国日本に対するアジア諸国の目は、厳しいものが有り、また、自衛隊イコール旧軍というイメージで自衛隊に対しても警戒をしているのも事実だが、できたらこのカンボジア派遣を通じて不幸な時代における忌まわしい出来事の歴史や自衛隊に対するイメージが、変わればとも思ってはみたり、この貴重な経験が、一生の財産に成ってくれればと思っても見たりしたが、今は只、全員が任務を遂行されて無事に帰国されることを願って止みません。

HIBA
千葉電気工事株式会社
代表取締役　千　葉　嘉　男
岩見沢市東山町22番地71
電話（0126）24-4567番

安心とゆとりのプラン
協栄生命　LL・ワイド　15 50 100
更新型
余裕資金を上手に活かして大型保障
協栄の保険料頭金制度をご利用ください。
定期特約付終身保険
協栄生命保険株式会社

近江建設株式会社
特定土木建築許可　一級建築士事務所
代表取締役社長　近江　章
代表取締役副社長　近江　雅章
本社　岩見沢市4条東17丁目48番地　電話 23-3026　FAX 25-6582
支店　札幌市中央区北1条西20丁目 岸本ビル4F　電話 643-2669　FAX 643-2816
支店　三笠市唐松町1丁目374　電話 2-3179

# ブルーベレーのナイスガイ誕生

派遣計画の作成

UNTACの活動を家族に説明する司令

パネル橋構築訓練

11種類の予防注射

風呂の蓋の上で暑さに耐える訓練

長堀曹長　　吉田2曹

「カンボジアとの連絡、
慰問品の取り次ぎなど・・・
私達におまかせ下さい！」
直通電話 0126－24－9778

通信訓練
こちらタケオ、カンボット送れ！

壮行会会場に入場する派遣隊員

クメール語の勉強
オークンチュラン（ありがとう）

岩見沢を後にする派遣隊員

健康と安全を守ってくれる「お守り」
（岩見沢神社のお守りも
持って行きました）

## カンボジアへ派遣される隊員諸君へのエール

・自ら志願し選ばれて任務につく諸君！
・青深い故郷（ふるさと）を背に日本を離れんとする諸君！
・南の青い海を眼下に、白い雲が浮かぶ
・大空を征く諸君！
・赤茶けた灼熱の大地は諸君を待っている！
・諸君は見るだろう。傷つき疲れた人達を！
・諸君は知るだろう。戦争の虚しさと平和の尊さを！
・諸君は解るだろう。たゆまぬ訓練が何故に大切かを！
・諸君は感ずるだろう。人のために尽くす喜びの深さを！
・諸君は思うだろう。日本がどんなに素晴らしい国かを！
・辛いこともあるだろう。危険なこともあるだろう！
・私達は成功を信じている。そのために諸君は訓練してきたのだ！
・私達は諸君を待っている。日焼けして一回り大きくなった諸君が全員無事故郷（ふるさと）へ還る日を！

軍事アナリスト
（元北部方面総監）
志方俊之

# 派遣隊員の抱負

**三等陸佐　山田伊智郎**
（大隊本部第二係主任）

国連憲章の六章半と呼ばれ、一九八八年にノーベル平和賞を受賞したPKO。この活動に自衛隊が初めて参加し、自分がこの一翼を担うことを思うとき、任務への重責感とやり甲斐が否応なしに沸き上がるのを感じます。忍耐と情熱により淡々と任務を遂行し、混乱のカンボジアの中にあって、国家の重要性と平和の貴さをこの身で感じ、人との出会いを通じて、一回り大きな人間に成長して帰国したいと思っています。

また、思う存分活動ができるのも、皆様の支えによることを肝に銘じ、そして皆様の想いを心にとどめカンボジアでの半年間を過ごして参りたいと思います。

皆様も、健康に留意されてご活躍されることを祈っております。

**一等陸尉　池田　哲夫**
（本部管理中隊副中隊長）

昨年秋、要員として指定されて以来半年が早、過ぎてしまった。PKO派遣に関する教育訓練も数多く受け、今月いよいよ出発の態勢となった今、すでに気持ちの一部はカンボジアに到着しているともいえる。

さて、派遣隊員としての抱負であるが、第一に任務が非常に意義深い国際平和協力業務に参加できることで、誇りと責任を強く感じているこの任務を必ず成功させたい。

第二に「不自由を常と思えば不足なし：」の精神を忘れずに、困難な条件にチャレンジしたい。その中にあって、隊員の楽しみをつくり良い思い出づくりもしたい。

第三に職務上、本管副中隊長としての管理面の全般が見られるポストであり、大隊の衣食住及び衛生そして原隊との連絡等で貢献したい。

最後に岩見沢十二施設群の隊員として、強い心の絆を持ち一名のトラブルもなく、元気で全員無事岩見沢へ還ってきます。我々を支えてくれている皆様に感謝を忘れずに出発致します。

**一等陸尉　鈴木英明**
（施設第二中隊長）

人生の最大の喜びは「人のために奉仕をし感謝をされる事」であると、ある著名な方がおっしゃっていました。

長年の戦禍に苦しんできたカンボジアの復興のために、日本のPKOの魁として活躍できることは無上の喜びであります。

また、この派遣を通じて日本の繁栄や平和の尊さを肌で感じる事ができ、我々の本来の任務である国を守る事の重要性を、国際感覚を持って再認識できるのではないかと思います。

以下、派遣にあたっての中隊長としての抱負を述べてみたいと思います。それは「隊員の安全確保」を第一義に任務を達成する事であります。不安定な治安、厳しい気候、劣悪な衛生環境等我々を取り巻く環境は決して良いものではありませんが、ご家族からお預かりする大切なお父さん、ご子息を無事に連れ帰る事が私に課せられた最大の任務であると思っております。

最後に、我々の派遣を支えていただく残留される隊員、支援各団体及びご家族の方々に深く御礼を申し上げますとともに、来る秋には無事大任を果たして、この岩見沢に戻る事を御約束し、派遣に当たっての抱負とします。

**二等陸尉　三家本勝志**
（第二中隊副中隊長）

I'm great pleasuer to my position

「おっ、二中の副長はずいぶん若いな。幹候何期だ？」「なんだ、まだ独身か。そんなことで営外者（妻帯者）を指導できるのか？」一月中旬の副中隊長要員集合訓練での一コマでの会話である。

私自身UNTAC要員に指定された時、役職が副中隊長と聞いて若干の当惑いを感じたことは事実である。小隊長であれば現職の職務であるので与えられた任務を遂行する自信はある。

また、今までの学校教育と自分の経験から、私自身の「中隊長像」というのも確立している。しかし、副中隊長という職務は今まで全く考えた事がない地位であるので、「何故、俺がそんな事を！」とまず考えた。しかし任務を分解してみて、また、派遣準備業

おしゃれの店
洋品の マルカワ
高橋邦夫
岩見沢市3条東1丁目 ☎(22)1224

・・・・・・だから
二人の時間を刻みたい
よろしければ・・・・
Iwamizawa
Heiankaku
Phone. 0126-23-4581　Free Dial. 0120−201143

時代を一歩リードした
中庭のあるモデル住宅
柏崎建築設計事務所
建築請負 柏崎建設株式会社
代表取締役 柏崎照明
会社　岩見沢市11条西1丁目
電話(代)(23)2129番
木工場　岩見沢市東山町
電話(24)1725番

務を担当していると「これは容易な任務ではないな」と認識した。いずれにしても経験したことのない環境条件の任務なので、今までは私も全く考えていなかった「副中隊長像」というのを想像・確立して半年間過ごすのもまた一興ではないだろうか？

不安な事項、不確定な事項も数多くあるものの、その不確実な要素の中で私の論理を実証してみたい。

**陸曹長　岸良　省三**
（第二中隊付准尉）

第二次派遣施設大隊の要員として選抜され、いよいよ出発も間近に迫り身の引き締まる思いがします。

昨年の一次派遣隊出発時から、予想していたとおり我々北方から二次派遣隊が編成される事を聞き、家族の意見も聞かず希望し重責ある付准尉の職務を任ずることになり、自分の軽薄さに一時期悩みもしましたが、第二中隊の要員の精強で頼もしさを目の当たりにし未熟な私でも皆の力を借りながら何とかやれるのではと思っています。

未知の土地で初めての海外勤務と言う事で色々な困難があると思いますが、付准尉としてやるべき事は施設第二中隊の全員が、元気で最後まで全員揃って任務を遂行できるごとく、裏方に徹し一人の脱落者も出さぬ環境作りに努めたいと思います。

最後に約六ケ月後、また皆さんと元気な姿で勤務出来ることを楽しみに頑張ります。

**一等陸曹　宮崎　勝彦**
（第二中隊一小隊小隊陸曹）

現在、私が考えている抱負、絶対やらなければならない事といえば、通常訓練であれば任務の完遂ですが、特に今回のような状況であれば限られた期間内に橋の補修、構築、迅速かつ確実な道路整備を実施することだと思います。

今回の派遣にあたっては、第一に安全に配慮すること。

第二に「外から見た日本」に着目して勤務していきたいと考えております。

第一の安全ですが、小隊陸曹として隊員に怪我などさせないようにするとともに、周りの状況や住民についても考慮し、現地の人達が安心して使用できる道路・橋等の復旧に全力であたります。

第二の外から見た日本ですが、今まで感じられない日本の平和と恵まれた環境を現地で見た、そして感じたことと比較して、再認識しそれを日本で待っている隊員はもとより、子供たちに知らせてやりたいと思っています。

最後に、日本の代表として、自衛隊の名を汚す事なく頑張ってきます。

**二等陸曹　江藤　省吾**
（第二中隊一小隊副分隊長）

私には初めての海外出張、それが二次派遣隊PKOの仕事になります。私がなぜ希望したかと言いますと、自分の抱負である「チャレンジ精神」という言葉を語っていることと、陸上自衛隊いや日本を代表する一員として少しでも世界の平和に貢献できる意義の重大さを感じた上での決意であります。

しかしながら、私の一言で決める問題ではなく家族の理解があり成り立つものです。始めから「行っていらっしゃい」の了解を受けた訳ではありません。ニュースを見ながら「平和維持活動中のUN隊員も皆んな同じような気持ちを想って家族と離れ、その国のため、世界平和のために働いているんだ、俺もこの仕事に加わるんだ」と、言ったこともあります。

いつの日か息子が成長し、「お前がまだ小さい頃、お父さんはPKOでカンボジアという国に行ったんだぞ」と、説明する時が来るでしょう。

元気に「ただいま」と、家族に逢える日は数カ月後。私は、カンボジアに行きましたら自分の抱負を変えて「健康第一」にします。頑張ってまいります。Peace！

**三等陸曹　中村　信之**
（第二中隊第二小隊二分隊員）

私は今回、何故カンボジア派遣隊員に志願したかというと、海外で自分の力を試してみたいというのが大きな理由であります。私たちの作った道路又は橋などがカンボジアの人々に役に立ち、喜んでもらうことができたら幸せに思います。

私自身、海外に行くのは初めてであり、なおかつ妻一人残して行くのは多少不安ではありますが、妻の励ましの言葉や、気の合った同僚と共に行くことができるので、今から非常に楽しみです。

私の最大の目標は派遣隊員一人も欠けることなく、元気に無事日本に帰ってくることが一番の目標であります。

私たちは今、大きな夢と期待を胸にカンボジアへと向かいますが、どうか御家族のみなさん並びに部隊で勤務される方々、温かい目で日本から私たちを見守っていて下さい。

**陸士長　沢田　正樹**
（第二中隊中隊本部整備係）

今回、第二次派遣施設大隊第二中隊の中隊本部要員としてカンボジアに行くことになりました。

昨年十月から準備を始め、早くも五ヵ月が過ぎましたが、当初は半年も先の事だからと他人事の様に考えていましたが、出発まであと一ケ月あまりになってしまい、荷造りをしていると「自分が行くんだな」という気持ちになってきました。その間、テレビや新聞等で現地の情勢などが報道されてきましたが、どれも自分が不安になる様な事ばかりでした。他の人は、現地の治安や自分の業務などが不安だと思いますが、私にとってはやはり現地の暑さです。

私は体が太っているので、現地で体が動くかどうか心配です。しかし、北海道の自衛隊の代表として選ばれたからには、最後まで任務をやり遂げ、無事に帰国したいと思っております。

最後に部隊に残って仕事をする人の分までカンボジアで頑張りたいと思います。

**陸士長　杉浦　広行**
（器材中隊クラッシャー係）

私はPKOに行くと決まってからまだ期間があると思っているうちに、出発まで後一ケ月ぐらいになってしまった。

私の職種はクラッシャーだけど、初めはどんなことをやってそしてどんな人達とやるのかとても不安でした。そして、大きな岩を砕いて砂利を作ることだと聞いて、「これならオレにもできそうだ」と思いました。そして、大隊訓練の時に、同じクラッシャー手の人達と会って結構楽しくやれると思った。

このような情報を聞いたりいろいろな人に会ったりしていくうちに、「オレはカンボジアに行くんだ。オレはPKOに参加するんだ」という気持ちとやる気に満ちあふれてきました。そしてカンボジアに行ったら何がなんでも頑張ってこようと思います。

今度、日本に帰って来る時は真っ黒に日焼けをして、ニコニコした満面の笑顔で帰国しようと思います。

ビル管理資材、清掃用具、日用雑貨
ビルメンテナンス（知事登録、北海道元清第6号）
はしもと商事有限会社
代表取締役 橋本　了
岩見沢市駒園5丁目6番地
TEL 代表 (0126) 22－5546
FAX (0126) 22－5546

オール電化マンション
レジェンド
（有）エイ
連絡先：岩見沢市6条西7丁目
☎22－0087

総合商社
株式会社 君島商会
□本社 岩見沢市南町8条2丁目 ☎22－4613
□志文支社 岩見沢市志文本町2条3丁目 ☎22－5813
□栗沢支店 栗沢町本町10 ☎45－2068
□石油部 岩見沢市南町9条2丁目 ☎22－4565
□自動車部 岩見沢市南町9条2丁目 ☎22－6434
□オートザム岩見沢 岩見沢市南町9条2丁目 ☎22－7861
□コンパス岩見沢 岩見沢市南町8条2丁目 ☎24－8390
□セブンイレブン岩見沢南町店 岩見沢市南町8条2丁目 ☎25－4840

# 派遣隊員に贈る言葉

業務隊長
二等陸佐　影井　國男

第二次国際貢献活動のため、日本を代表してカンボジアへ派遣される皆さん、いよいよ待望の活躍する日が来ましたね。

昨年八月以降、編成要員に逐次指名され、これまでの約七～八ケ月間に、健康診断、各種の予防接種、歯科治療、家族との話し合い等の他各種の施設大隊訓練をも実施され、心身ともに周到且つ充分な準備をした事と思います。

各種の資料等によりますと、これから皆さんが行くカンボジアは、気候的には雨期に入るため、毎日の様に短時間に多量の雨が降り、しかも気温は三十℃以上であると言う事でありますので、厳寒の地北海道で直前まで勤務し生活していた皆さんにとって、身体がカンボジアの気候に慣れるには大変時間がかかると思います。又、最近のカンボジア国内情勢を見ますと五月選挙が近づくにつれて各地で紛争が頻発しており選挙後の状況は予想だにつきません。その上、皆さんが活躍する際の基盤となる交通・治安状況も日本とは比較にならない程無統制で混乱状態が続いていると言われております。この様な厳しい状況下で、日本を代表して任務を遂行し、国際貢献される皆さんは大変な努力と献身と苦労が予想されます。この中にあって大切な事は、皆さんの健康管理と規律・統制のとれた部隊行動であると思います。康管理とは、ただ単に身体だけでなく精神状況の事をも意味します。各種の制約を受けた状況下では、身体の調子よりもまず精神的に参ってしまいますので、常に物事を明るく良い方向に、肯定的・楽天的に考えるのも、この様な状況下では大切な事かもしれません。

次に、この様な時はしばしば種々の流言が飛び交いますので、個々の事象に惑わされる事なく、又、一部を見て全体を判断する事なく、常に指揮官・上司を信頼し、その指示・命令に従うとともに復命復唱・報告・通報の確行が強く望まれます。

最後に、出発後の皆さんの留守家族及び駐屯地の諸事については、残留する駐屯地隊員が全力をあげてバックアップしますので、精一杯努力され群代表（岩見沢駐屯地代表）として、日本の国際貢献活動に尽力していただき、元気な姿で帰国されん事を強く祈念します。

本部管理中隊長
三等陸佐　小笠原貞夫

ＰＫＯ派遣隊員の皆様に「おめでとう」そして「御苦労様」と申し上げます。

私が自衛隊に入隊（昭和三十二年）した頃と昨今の自衛隊を見ていると、将に隔世の感があります。しかしながら自衛隊本来の任務は些かの変更がある訳ではなく、新たな任務を付加されると理解しております。従って、ＰＫＯ任務達成のためには、経験したことのないことも多く、その御苦労は計り知れないものがあると思いますが、「世界の中の日本、日本の代表としての自衛隊」としての気概をもって全力投球してもらいたいと思います。

自衛隊を取り巻く環境は色々騒々しいものもありますが、部隊は命令に従って粛々と任務を達成すべきものと考えます。残された我々は、皆様方が百パーセントの力を発揮できるように、「心配事」を取り除き、御家族共々の支援を惜しみなく実行するとともに、本来の任務をしっかり果たすことが大切と思っております。

ＰＫＯ派遣隊員と我々とは任務の形態や、場所のちがいはあるにせよ、共に目指しているものに何の違いがある筈は有りません。「日本の自衛隊」が健在している姿を、国民の皆様に、世界の人々に見てもらいましょう。頑張ってください。

遠く異国の地で活躍するためには、今以上に「自己を確立」する必要があると思いますが健康に留意されて、縦横無尽に活動し、完全燃焼して無事で帰還することを心からお祈り申し上げます。

第三一二施設器材中隊
一等陸尉　中村　一國

ＰＫＯ派遣隊員の皆様、約半年に及ぶ任務は大変だと思いますが、中隊の代表として国際貢献の為に日頃の施設技術を遺憾なく発揮して任務を完遂して下さい。

派遣隊員の職務遂行に当たり次の事が大切と思います。

一　派遣施設大隊の隊員として誇りを持って行動してください。

二　常に自己の健康チェックを確実に、また体調を崩したときは早期受診をして下さい。

三　各人が基本的事項と基礎動作を徹底させ安全な作業をして下さい。

妻子・両親・恋人を岩見沢等に残し、不安であろうかと思いますが、中隊等が責任をもって派遣隊員の留守家族を支援致しますので、安心してカンボジアで活躍して来てください。

最後に、二年間中隊長として大過なく職責を全う出来た事を感謝いたします。

第三四二施設中隊
一等陸尉　熊谷　裕文

ＰＫＯ要員諸官、いよいよ第二次派遣が目前に迫って来ました。

諸官は国際貢献の魁として崇高な任務を命ぜられたわけであります。しかしながら、現地の状況は決して生易しいものではありません。

また、愛する家族・恋人との長期離別、いわれのない批判等心ないマスコミ報道、労も多々あろうかとも思われます。そんな時、どうか岩見沢・名寄に残っている同胞のことを思い出して下さい。そしてＰＫＯ参加に熱い想いを抱きながら諸般の事情により要員には選定されなかった隊員の分まで頑張って来ていただきたい。心からエールを送ります。

最後に老婆心ながら言わせていただくなら、諸官は決して生命を落とすことがあってはならないと言うことです。たとえそれが自分自身の不注意によるものでもあってはならない事なのです。

健康に十分留意し、作業間の安全管理を確立し、また、万一最悪の事態が発生した場合あらゆる手段を尽くして自分と自分のなかまを守り、誰一人生命を落とすことの無いよう祈っております。

第十二施設群の代表として無事大任を果たし、全員が元気に凱旋する日を心待ちにしています。

第三三五施設中隊長
一等陸尉　春木　直

ＰＫＯ派遣で世界に羽ばたく日が来ました。

ＰＫＯ隊員の皆さん

一　日本の、自衛隊の、十二施群の、中隊のそして一家の代表という意識を忘れず

二　まず、身体を気温差五十℃のカンボジアの気候に順応させ

三　強固なチームワークと規律・団結・士気のもと

四　長期間なのであせらず一つ一つを着実に

五　ポルポト派を恐れず、カンボジア人との交流を深め

六　残された家族との連絡を楽しみにして

七　怪我したら予備要員とすぐ交代させせられることを忘れずに、ＵＮＴＡＣの一員としてベストを尽くしてもらいたいと思います。

ＰＫＯ隊員の家庭訪問を実施して感じた事は、奥さんが明るくしっかりしているという事です。銃後の守りは万全です。

十月、逞しく日焼けし、笑顔で無事帰国する日を待ち望んでいます。カンボジアで大きく羽ばたいて下さい。

第三三七施設中隊長
一等陸尉　岡本　美弘

いよいよ第二次派遣部隊としてカンボジアに出発する日となりました。派遣される隊員一人一人が、カンボジア復興の原動力としてその責任と意義は極めて重要であります。

カンボジアは、古来より文化・伝統のある国でありますが、度重なる内戦により豊かで平和な国が崩壊し、自国での立ち直りが不可能な状態に陥っています。

我が国の代表として、高度な技術とすぐれた隊員によって行われる貢献事業は、カンボジアの復興に大きく寄与する意義深いことであります。

残留する我々にとっても、そ

宝石　創業８６年　貴金属
防衛庁共済組合岩見沢支部契約店
㈱太田時計眼鏡店
岩見沢市１条西４丁目
TEL 0126㉒3353 ㉒3354

安心しっかり
愛車もしかっり
車検費用積立プラン
富士火災
担当　松浦直樹
岩見沢支社　Tel 23－5142

株式会社　本堂建設工業
取締役社長　本　堂　春　夫
本　　社　三笠市幾春別町４丁目
電話 (01267) 代6－8288　FAX (01267) 6－8030
札幌支店　札幌市白石区本通１丁目南１
電話 (011) 861－1381　FAX (011) 865－5034
石狩支店　石狩町花川南１条１丁目１１
電話 (0133) 73－3111　FAX (0133) 73－0757

の使命の重大さを痛感させられるものであります。言葉も生活環境も違う国での作業でありますから、幾多の困難、ご苦労も多いことと思います。一日も早くかの地の風俗習慣に慣れるとともに、自らの努力と勉強によって日本とカンボジアの架け橋となってくれるようお願い致します。

派遣される隊員一人一人が重大な使命を担って、気候風土の異なる地へ行かれるのですから何よりも健康に注意して、その使命を辱めないよう努力されることを望んでいます。

最後に、初期の目標を達成し無事帰国することを祈っております。

## 家族からの激励

本部管理中隊
北山幸一一曹夫人　恵子さん

昨年、もみじも色づくある日、帰宅した主人が突然「カンボジアに行く」と言いだしました。よく判らないない私に「今度、交代として北部方面隊が行くようになる。今、部隊で希望調査をしているので俺は自衛官としてぜひ参加したい。ついでにお金でも稼いでくるか」との事でした。言いだしたら聞かないわがままな主人のこと、私の意見など無用とばかりに日を輝かせているのです。

私も新聞やテレビでPKOの事は承知しておりましたが、まさか主人が参加しようとは想像もしておりませんでした。

「カンボジアは危なくないの？　そんなに若くもないのに…　子供もこれからが大変なのに…」等々主人の長期間の留守に不安を抱きました。そして以前にも増してPKOの関連ニュースを注意して見るようになりました

そんな私を知ってか主人は「家を一歩出たら日本もカンボジアも同じだよ。人の運命だよ！それより本当は、お前が自信が無いんだろう！」と。悔しけれど心に感じるところがありました。そんないきさつの中、主人を送りだす現在では、国際貢献という大任を担う主人たちがむしろ頼もしくさえ感じております。

家の事は心配せずに無事に任務を終え、そして一日も早く元気で帰宅する事を待ち望んでいます。

一緒に参加される方、心なくも部隊に残られて仕事をされる方、共に大変だと聞いております。皆様方のご活躍をお祈り申し上げます。

第三三七施設中隊
荒井耕治一曹夫人美喜枝さん

昨年九月、第二次派遣隊が北部方面隊に決まって以来、親戚・友人等から「本当に行くの？」と聞かれ、私としては何とも言えず戸惑っていました。けれども主人の「カンボジアに行って少しでも現地の人のために仕事をしてみたい」と言う気持ちに負けて、と言うよりそこまで意志の強い人なので、カンボジアに行って思い切り仕事をして欲しいという気持ちに変わりました。

出発まであと一ケ月近くになり、いろいろな荷物の準備をしていますと「本当に行ってしまうのかな？」六ケ月間主人がいない生活が不安でないと言ったらうそになりますし。カンボジアに行く主人の方もポルポト派の動き、地雷、気候、風土いろいろな病気等心配したらきりがないのですが、子供たちのため、私のために、病気や怪我などしないで元気で帰ってくる日を家族で力を合わせて待っていたいと思います。

派遣隊の皆さん！！皆様方のPKOの御活躍と御無事を祈っています、頑張って行って来て下さい！！

本部管理中隊
遠藤勝洋准尉夫人　瑠美さん

ある日の夕食時の話題に、主人がPKOの話をしてくれました。

残り少ない自衛隊生活にこの様な一ページが出来るのは素晴らしいと、私は思った。でも、主人は私の入院歴があることや、父の事色々頭の中で葛藤があったと思います。その主人の気持ちの大きさに感謝し、主人が世の為に働ける事、自衛官でなくては出来ない仕事がある。私は大賛成でした。それから夕食の話題に色々の事を聞かせてもらいました。

私が今、上人にして上げる事、留守の間の家の事、主人の健康な体力づくり、と思い私なりに致しましたが時間の過ぎるのは早いもので、一つ二つ準備をしている時はよかったのですが、準備の方が進むにつれ寂しい気持ちもあり、出発日まであと何日となると「私は笑顔で送れるかしら、泣くのではないか」たて前でも笑顔でと思うが私には無理みたい。主人はこの気持ちがわかる様で、気遣いがありこの一瞬を大切にし、それと主人の考えと私の考えが同じであった事がとても幸せです。

貴方、頑張って精一杯働いて来てください。

### 施設大隊訓練秘話

上杉1曹

- 編成完結後のバレーボール大会、B指定ながら大汗をかきながら相手チームを脅しつつ勝ち進み、準優勝に導いた某2曹
- 訓練中日を過ぎて毎夜の団結会、次の日、目を真っかにしながら教育参加の某3尉
- 米軍との英会話、俺のニックネームはセックスマシーンに大笑い
- 現地の話を隊員一同真剣に目を閉じて首をふりふり真剣に聞き入っていた
- 青いベレー帽をもらい、頭の形を気にしながら鏡の前で被り方を研究していた姿は、初めてランドセルを買ってもらった小学生
- ベレー帽をかぶった姿を隊員が見て「ラーメン」一丁に大笑い
- 誘導手、雪の降る中へり誘導、風雪に耐えきれず後退り
- 団結が固まったのか"酒は飲め飲め飲むならばー"が大流行、一気飲み高じてクラブの便所は大繁盛

## 冬のイベント支援

月形冬まつり（円山総合運動公園）

（期間1.28～2.9
きょぴちゃんすべり台等制作延べ人員68名）

岩見沢ドカ雪まつり（東山公園）

（期間1.18～2.5
雪輸送大型ダンプ延べ181台、延べ人員181名）

北村田舎まつり（農村環境改善センター前広場）

（期間1.27～2.15
かまくら及びすべり台等制作延べ人員130名）

三笠恐竜まつり（クロホード公園）

（期間1.18～2.5
恐竜すべり台等制作延べ人員227名）

# ご結婚おめでとう

・本部管理中隊
士長　高橋　進一
妻　かおりさん

10月16日

・第三三五施設中隊
三曹　村田　正隆
妻　真弓さん

12月1日

・本部管理中隊
一士　杉本　年美
夫　正昭さん

12月8日

・第三三七施設中隊
三曹　大谷　祥一
妻　千春さん

1月23日

・第三三七施設中隊
士長　大内　貞昭
妻　久美子さん

2月24日

・第三三七施設中隊
三曹　中村　信之
妻　泉さん

2月27日

・第三三七施設中隊
三曹　千葉　春彦
妻　美夏さん

3月8日

・第三三七施設中隊
三曹　中島　雅志
妻　美紀さん

3月18日

# 人事往来

◎転出の部

【第十二施設群】

・本部管理中隊
一曹　小林　實　342施中
三曹　新原　春義　342施中
三曹　中濱　勝男　12普連

・第三三六施設中隊
三尉　山崎　義浩　霞ヶ浦業

・第三三七施設中隊
曹長　澤田　哲明　342施中
士長　大富　陽一　4施大

・第三四二施設中隊
一尉　高木　茂　群本部
三尉　伊藤　實　2後支
一曹　赤井　満　本管中
一曹　畠山　晴幸　本管中
一曹　谷内　俊昭　本管中
一曹　小原　三男　312器中

・第三一二施設器材中隊
三曹　能藤　大作　札地連
三曹　森田　哲也　342施中

【業務隊】
一曹　川津　敏行　別府業
行(一)4　深掘　清志　札幌
行(一)4　北谷　昇留　萌
行(一)3　佐藤　俊昭　滝川

【基地通信隊】
三曹　横井　英一　倶知安

【警務隊】
三尉　小谷　啓治　芝浦

◎転入の部

【第十二施設群】

・群本部
二尉　高木　茂　342施中

・本部管理中隊
准尉　片岡　正勝　北恵庭業
一曹　赤井　満　342施中
一曹　畠山　晴幸　342施中
一曹　谷内　俊昭　342施中
一曹　大矢　稔　札幌病
三曹　山上　節男　札幌病

・第三三五施設中隊
二尉　森杉　荘司　幹候校

・第三三六施設中隊
一曹　阿部　康宏　中央病

・第三四二施設中隊
三尉　平田　昭浩　4施大
曹長　澤田　哲明　337施中
一曹　小林　実　本管中
三曹　新原　春義　本管中
三曹　森田　哲也　312器中

・第三一二施設器材中隊
一曹　小原　三男　342施中
三曹　岡田　耕英　7施群

【業務隊】
二曹　板垣　洋一　遠軽
行(一)4　姉崎　松治　函館
行(一)3　坂本　孝裕　留萌

【基地通信隊】
士長　長山　和実　真駒内

【警務隊】
三尉　杉本　勝男　倶知安

【新規採用】
行(二)2　出村　喬

# 永年の勤務ご苦労様でした

本部管理中隊二月六日付
曹長　田村　久雄
就職先　(株)北海道ハイウェイサービス

第三二七会計隊三月二一日付
曹長　中村　直之
就職先　(株)北海道ハイウェイサービス

第三四二施設中隊二月二六日付
曹長　原田　勝利
就職先　富永機械リース(株)

業務隊三月三一日付
行(二)　中矢　和夫
自宅において充電の後決定

# Happy Birthday

・第三一二施設器材中隊
三曹　能藤　大作
長女　桜　一月二〇日

こんにちわ

・第三一二施設器材中隊
三曹　竹下　明宏
長男　光太郎　三月八日

・第三四二施設中隊
一尉　熊谷　裕文
次男　孟士　三月一〇日

・第三三五施設中隊
三曹　稲田　弘美
長女　望　三月一七日

赤ちゃん

・第三三六施設中隊
士長　渋田　啓之
長男　純平　三月一三日

サンプラザ ウエディングプラン
エメラルド
挙式から披露宴までのすべてをセットしてこの価格！
ご両家ご負担 25万円
ホテルサンプラザ
岩見沢市4条東1丁目 ☎23-7788

● 年金と医療保険のパイオニア
● 生涯の保障に終身保険(明朗)
頭金制度により毎月安い
保険料で大きな安心
東邦生命
担当 深沢 隆子 (内327)

自衛隊退職者雇用協議会
岩見沢支部
事務局：岩見沢商工会議所内
支部長：勝井 祐輔
TEL：0126-22-3445